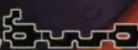




Ben's Works [Light Sketch]

ベズワークス [ライトスケッチ]

Powered by  next-prototype

00000000





今もう一度、 『モンハン本』を振り返ってみる。

自分がモンハンを始めたきっかけは、ドラゴンなんです。
なかでも赤い飛竜・リオレウスが、とにかくカッコよかったから！
ただもう、ひたすらに！！
フィギュアは、我が家の御神体です（笑）。

だから同人誌では、ひたすらにリオレウス描いてました。
自分のなかでは、キングオブドラゴンなんですね〜。
ハート、わし掴みなんです。

■協力プレイは、蜜の味。

おかげさまで前回作った『モンスターハンター本』は、なかなか好評なようでして、嬉しい限りです！
一年かけて作ってきた甲斐があったな〜と今でも思います。

電車内でもPSPやってる人は大抵『モンハン』だったりしてし、
ホントに人気が出てきたんだな、と思わずには入れません。
いや自分は同人誌作っただけなんで、元々まったく関係ないんですが…（笑）。

そもそものきっかけは、ポータブルのとき。
発売していたものの、周りの評価は『完成度高いね〜』とだけだったものの、なぜか『ネットワークゲームを研究しよう！』という流れになり、遊ぶようになりました。
自分はすでに初代を1日でリタイアした経緯があったので、正直『え〜？』という印象しか受けなかったものの、
クエストに連れ回される内に、素材が溜まり、段々外見が変わっていきました。
やめた理由のひとつに、費やした時間の割に見返りの少なさ、というものがあって、知らずの内に素材が溜まっていき、解消できたんです。
僕が協力プレイをすすめる理由は、そんな経験からです。
ひとりでやるより、全然楽しいですよ。
（周りにいる人が、オトナな人が多かった、という説もありますが）

アクションとしても結構よく出来てると思います。
自分で考えれば、一見動作が緩慢な武器でも素早い動作を行える、日本人のツボをついたゲーム性。
自分は初めから大剣だったんですが、ちゃんと考えればちゃんと戦えるようになるんですね。
まあそこに行くまでが、結構難関だったりするんですが…。

でも合間に他のゲームをやったりもしましたが、なんか居心地がいいですね。
村で流れる音楽を聞いて、何度眠りに落ちたことか（笑）。

ただやはりそれでもついでにいけない部分もある。
始めの採集クエストとかは、今でもつまんね〜って思います。
雪山での雪山草摘みとか、思い出すだけでも吐き血しそうなくらいです（笑）。
あれは、どうにかならんもんかウー…。フルフルパイピーも…。
あれでやめてる人も、実はそれなりにいると思うんだ。

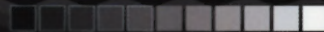
よし！『3』に勝手に期待しよう…！！

■第3版で追加したページです。持っていない人のために、ここに掲載。ナルガクルガ描けて楽しかった〜。





やっぱリオレウスが、一番男前だね〜。





■雷電さん。(右)

本当は、メデイコムトイの高い可動フィギュアを雑誌で見て、それにビビッと来てしまったのが、今回の動機です。

ゲームのモデルも、ちょい少し精悍でリアルでしたが、自分はフィギュア版が好きですね〜。色の使い方も、ここまで派手じゃなかったようなー。

2万以上するフィギュアなんて、おいそれと買えないし、だったら絵を描いて済ませてしまえ！と、昔おじいちゃんが言っていました。

■スネークさん。(右)

『4』のスニーキングスーツの質感が自分的にツボで、たまりません！
ビニール系/イライと、メッシュがたまりません！！

そしてなぜか忙しくなると、ボクは無性にスネークを描きたくなります。
病弱か！(笑)

ゲームをしていない自分は、結末は何も知らないんですが、MGSという話は、タイトルには『メタルギア』と冠しているものの、結局はスネークの話だと思うので、仮に死ぬのだとしても、結局次回『5』には何らかの形で出てくるんじゃないか、と思うんですけど、どうなのでしょう？

クローンとか、B級過ぎますかね…(笑)。



蛇と機械忍者。

家にPS3があれば、買っていたんだろうけど、どうもあまり家にないせいで、買おうと踏ん切りがつかないPS3。

じつはメタルギアって、ファミコン版とゲームボーイ版（ゴーストバベル）しかやったことない…。



雷電さんの、赤い充血した白目と青い瞳が、たまんねー！





最近恒例の巻末おまけ(ラフですが；)

『らき☆すた』4コマ TYPEMOON 編



発行日：2008年8月17日

印刷：(株)プリントバック

発行：Ben's Works

連絡先：[HP... Ben's Works Online]
<http://www.s5biglobe.ne.jp/~bwo/> サイト内 BBS
 [Mail] itoh_ben@yahoo.co.jp
 (予告なしに変更する場合がございます)

POSTSCRIPT

あとがき

さて今回はテーマを決めずに、プライベート系をメインに作ってみました。
 まあ周りにこういう本作りがブームというか、流行ってるというか、
 ご多分に漏れず、マネしてみたわけです。って、マネかよ！

とはいえ、参加日は3日目。
 そろそろ一般向け以外に、
 ピンクの先つちよやら、白い粘液をスプラッシュさせたり、
 何やらいかにわしい不届きな修正が入っちゃうっていう
 (周囲ではそれが普通なんですけど、自分にとっては) チャレンジングなものを作っちゃおう！
 と、当初は鼻息も荒く桃色な方向を目指していたんですが、
 どうも歳をとると、恥とか外聞とか気になりだしまして…。
 ダメだね、自分。歳は取れども、まだまだです。

しかしアレですね。
 やはり人間、ある程度は考えないと、
 やっぱりそれなりのレベルにも達しないということが、イヤというほど身に染みました…。
 同人誌制作において、無テーマといえども無暗に画は敵！
 英語で言うと、エネミーです！！
 編集作業は、いつになっても慣れないねー。

ということで、平凡に無テーマに終わった次、そう次回なんですが、
 やはりテーマに沿った本に戻ります。

禁断のテーマ。

それは『TYPEMOON』本！！

構想だけは、冬の『MH本』が終わってから、頭の中にずっとあったんですが、
 ようやく、『ひとつのものにしたい感じ』になってきました。

といってもボクが作る本なので、普通なものにはならず、
 少しだけ偏った内容になることは間違いないようです。
 押さえるところは押さえつつ、違うところを目指したい！
 目指してみたいんだ、オレは！！

あとゲスト様も、出来たらまた呼びたいですねー。

実は『MH本』のとき、凄く楽しかったんですよ。

ただ一冊の本を発行するという以外にも、

制作する楽しさや緊張だったりという、クロスオーバー的な感覚の再来みたいなものも、
 また味わえればいいな、と思ってます。

まずは呼び込みから始めてみますか(そこからかよ！)

そんなところで、次回は冬、あと3ヶ月しかありません。きやー！！
 それでは次回の本で、またお会いしましょう！

伊藤ベン



第八回

(エンターブレイン刊『マジキュー』vol.39)

『聖王月の巫女』

白き宣教師は、主を疑わずに教えを広め、
黒き騎士は、守るべきものために未知の宝珠を求めた。
清廉なる若き騎士は、心の奥に潜む闇と戦い、
奔放な冒険者は、過去の過ちを糺す旅に出た。
世界の主である月の巫女は、目を覆いながら聖者の詩を詠い、
力なき少年は、自らの無力さに打ちひしがれながらも、出会いと別れを経て成長していく――。

聖王月と魔王月。
二つの月が巡る世界の片隅で、物語は静かに始まった。

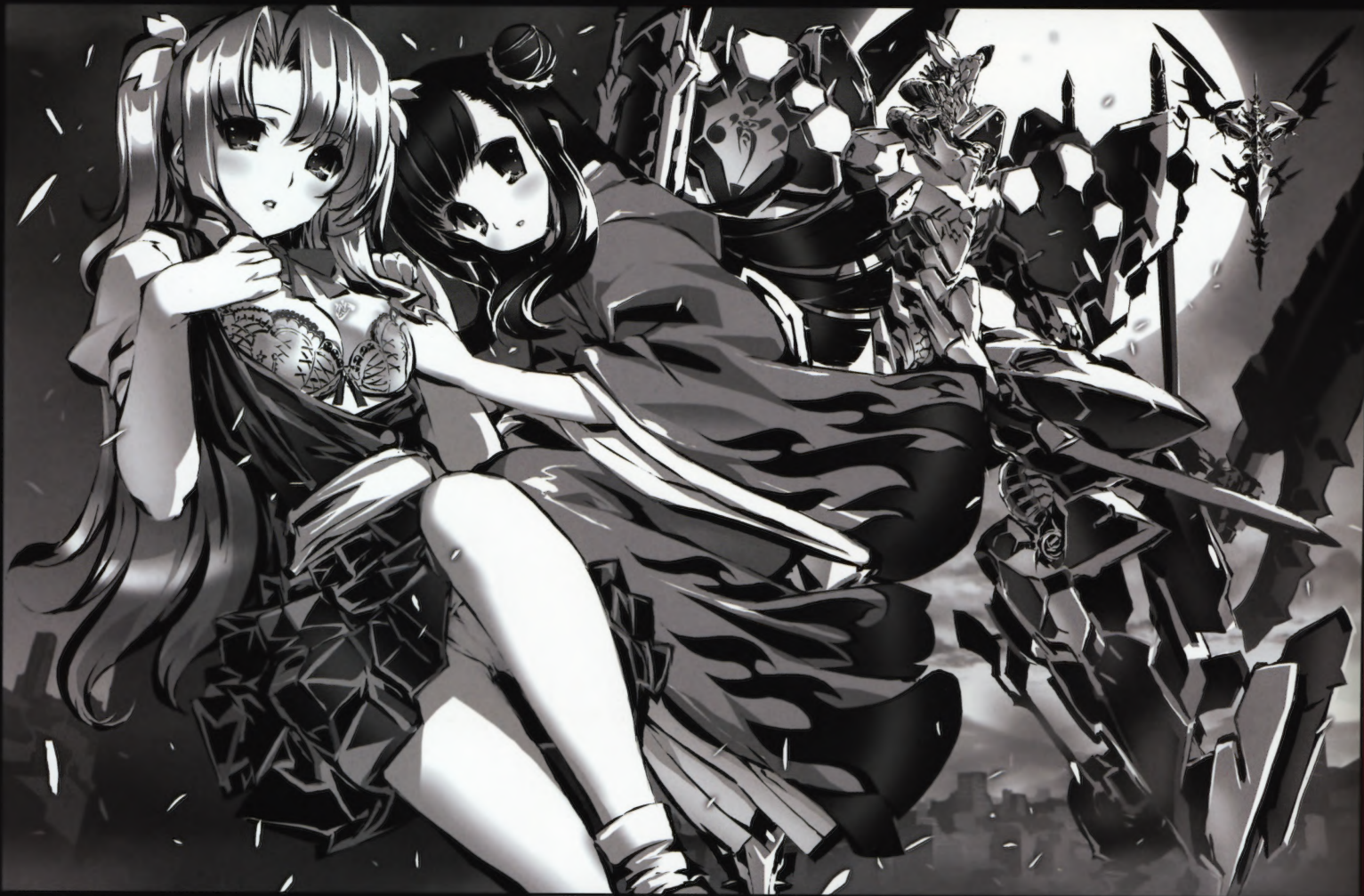
――遂に最終回ということで、最後はちょっとタッチを変えて、ずっと自分のなかで考えているお話をお披露目です。
何年も前から空想してものですが、実は今も何となく考えていたりして、このキャラクター達とは付き合いが長いですね。

一方、連載してきた『勝手にキャラメイキング』は、実はちょっとした言葉のイメージからヒントを得て、ストーリーを作ってきたものが多いですが、長くひとつのことを考えて出来たものよりも、面白いものになったりするところは油断できません。みなさんも時間を見つけて、ちょっとだけ空想の世界を考えてたりしてみても、いいのでは？
(発表時のまま掲載)

何年も前から考えているストーリーなんですけど、何年経っても形にしないところを考えると、形には出来そうにないな、というか(←弱気)。

RPG的展開がメインなんですけど、裏では、思想がどうか理想がどうかかメインだったりして、キャラの数だけ主義が存在しているというまさにカオスな精神論が満載の、じつは結構めんどくさい話なんです…(笑)。

やっぱり昔から、思い付いたら描いてるだけあって、線とか描き慣れてるよなー、他と比べると。



第七回

(エンターブレイン刊:『マジキュー』 vol.38)

『時空を移動少女+超巨大メカ』

神代市に住む普通の高校生朱莉の胸に、『幽』という文字が浮かんだ日、街は突如、炎に包まれた。

炎塵の舞う街の頭上に出現した機兵の腕から、弓のように長く反った光線が放たれ、無慈悲に街を焼いてゆく。そして、崩れたビルが朱莉に迫ったそのとき、護るように現れたのは、赤く染まった空を突き抜けるほど背の高い人型の機械と、和装の、長い黒髪の少女だった。

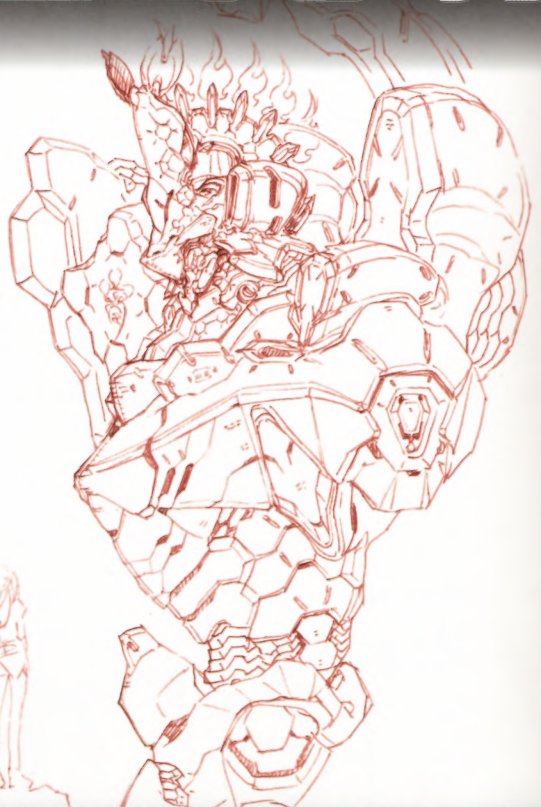
少女が小さく言葉を唱えると、巨大な機械は、その身長を腕に越える大剣で、機兵を薙ぎ倒した。そして少女は、朱莉に微笑みかけた。
『はじめまして。未来のお姉様…!!』

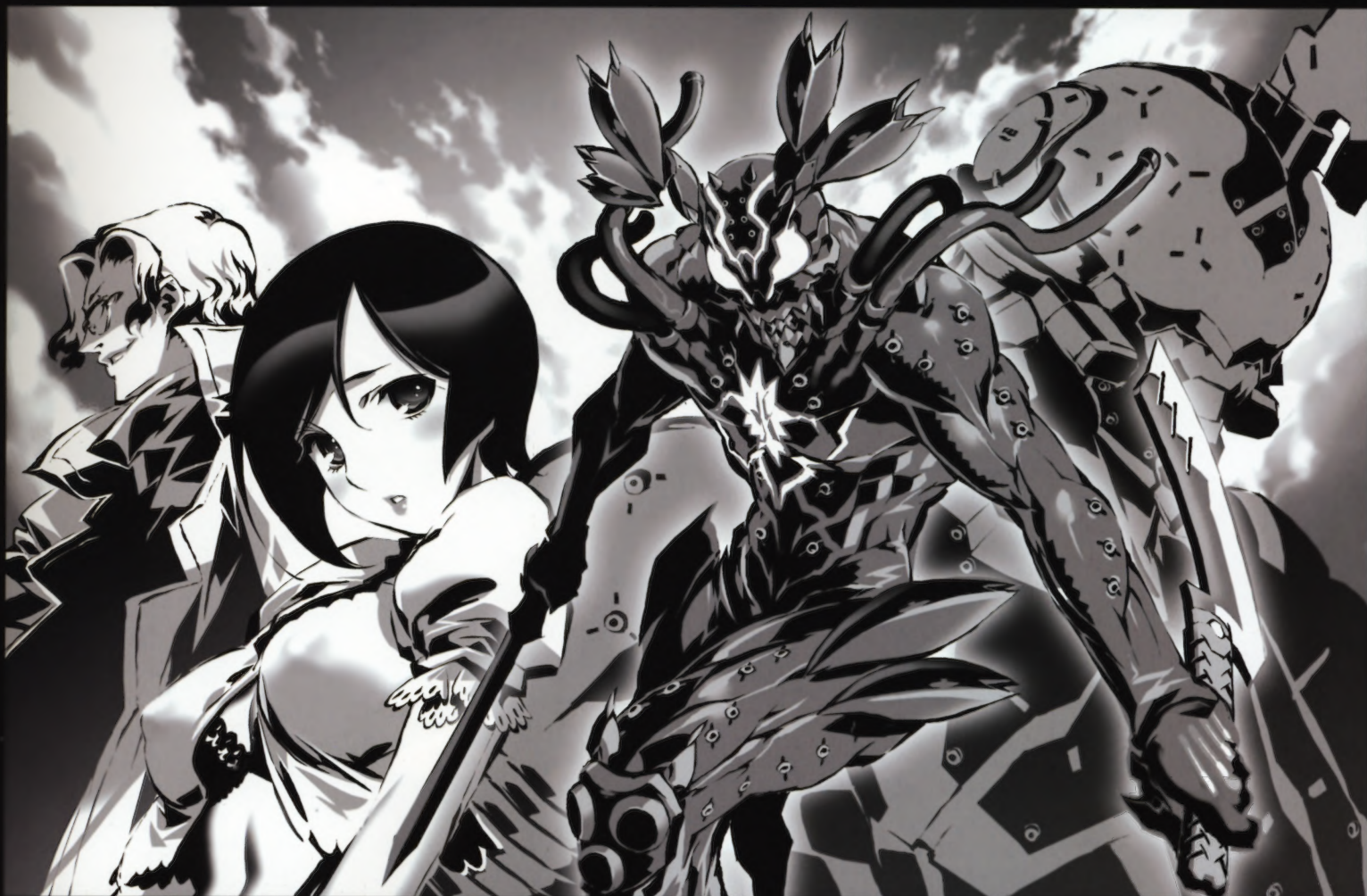
——今回は美少女ギャルゲー+巨大ロボを考えてみました。
ホントはもっと女の子描きたかったんですが、ロボを描いてたら、そっちに夢中になっちゃいました。この他の展開としては、隣に住む先輩お姉さんや、おフランスお嬢様（縦ロール仕様）、謎の中華娘の襲来とか考えてました。
まあ、考えるだけは、簡単ですね（笑）。
（発表時のまま掲載）

うわ、デモンベイン（笑）。そして敵メカは、八卦衆です。
とりえず頭のなかに印象深く渦巻いてるものを形にしようと思った。

移動は、脚のローラーで、ガリガリ進みます。
で、脚部後方に装備されているバイル/バンカーで、ガリガリと街路面を削りながら進んだり。

ロボ自体は、普段は空間の断面に封じられていて、和装の女の子によって現世に召喚されます。
基本的に胴体が基本ユニットで和装女の子担当、手足その他を、他の女の子に担当させようと考えてました。
中華娘とか縦ロールの子とかは、それ用のオプションパーツなんです、ぶっちゃけ。





第六回

(エンターブレイン刊:『マジキュー』 vol.137)

『現代特撮系』

——と、いうことで、今回は特撮です。

機密試験体の逃走です。

ラオダーに似てしまったのが、なんとも…といったところですが…(笑)。

寝苦しい夏の夜、癒音が目覚めると、そこに黒い人間がいた。

耳まで届く大きな眼は、蠟燭の焰に似た揺らいた光を放ち、頬から裂けた口をギチギチと震わせるその姿は、まさしく昆虫人間と呼ぶに相応しい。

窓を割り侵入したそれは、しかし何かに怯えている様でもあり、部屋の隅の本棚の前でうずくまり、ブルブルと震えていた。
(発表時のまま掲載)

もうまさに仮面ライダー！それ以外に何かあるかという…(笑)。

リアルな設定の仮面ライダーといえば、原型師の竹谷さんが作られたお話が、とても印象深いですね。

変異体(というかライダー)の胸から伸びてるチューブは、体に巻きつけて鎧の代わりにすることが出来ます。

後方の人造ライダーが、じつは結構気に入ってます。

敵怪人、変異体にボロ負けの図(笑)。

page

014



第五回

(エンターブレイン刊:『マジキュー』 vol.36)

『反想江戸時代+忍術活劇』

気が付いたらもう第5回目！ 時間の流れは、早いですね……。さて今回は、時代劇モノですYO！

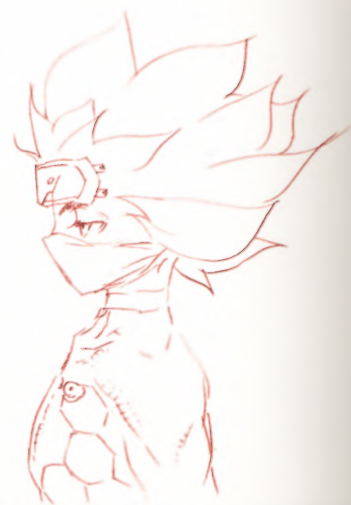
時は大江戸、登狗寛羽幕府。
幕府隠密鬼影隊は、老中汰沼意次から直々の命を受け、
襦袢の刻までに幕府転覆を企てる陀幽備守密圖から、
魔徒『暗き骸』の御霊が封じられた封珠・黒銀像を取り戻さなければならない。
「炎刃、通緝証、急ぐよ！
ぐずぐずしていると、『暗き骸』の封印が解かれちゃう……！」

——と、いうことで、いまボク達が現代に居るってことは、きつとご先祖さまは、江戸時代を生き抜いていたんだYO!! (意味不明)
(発表時のまま掲載)

設定とか人物名とか、完全に語呂遊びです。
専用用語を考えるのにずっと苦労したので、少くくは楽をしようかと… (笑)。
ヨコ乳ばんざい！

おにいちゃんがエンジンで、
ブタがトンファーです。

ブタだけにトン…。すまん (笑)





第四回

(エンターブレイン刊：『マジキュー』 vol. 35)

『白衣巫女+黒衣巫女』

かなり暴走気味の第4回目は、またしても『ファンタジー編』です。

ここは時空を司る世界『ア・ン』。
未来と過去を管理・行使する白衣の巫女『アルディーナ』と黒衣の巫女『エア』は
ずっとこの世界にいますが、どうしてここににいるのか、知りません。
でも、毎日楽しく過ごしています。

あるときエアは、アルディーナに訴えました。
『ねえアルディーナ。わたしたちはいちまでここに居なくちゃいけないのかしら？』
『そうね……次の因果律が、西の地平に消えるまでかしら？』
『いやよ、私。そんなに長い間、わたしは待てないわ……』
『エア。でもこれは“未来に決められたこと”よ？』
“東丘の碑石”に記されているのですもの。
『そうだが、アルディーナ。
わたしたちなら、“決められた未来”を変えられるのではないかしら？』

未来を変えるには、まず“東丘の碑石”を書き換えなければなりません。
ふたりは歩き出します。
でも、そこに至る道のりは長く、そして険しいものでした——。

——ということで、今回はシニール系に挑んでみました。
けれど、単に女のコと、地面のタイルを描きただけ、というのは秘密です(笑)。
(発表時のまま掲載)

前回まで好き放題やったので、4回目は萌え系にしてみようかと。
あと、地面をツートンのタイルに。よくある記号素材ですね。

ストーリーのほうは、不思議系にしようと試みたものの、
書いてる自分でもよくわからない話になっちゃいました。
これからどうしていいかわからない、正直全然考えてません…(笑)。
書いてしばらく経った今でも、まったくもって面妖なお話ですね。





第三回

(エンターブレイン刊:『マジキュー』 vol. 34)

『反想科学+至高少女』

第3回目は、再び『ファンタジー編』です。といっても前回とは様子が違います。

『神祕の秘宝石"ジ・アヴ"を核とする煌星レアス。その周囲軌道衛星を守護する統合軍第7師団将軍『紅剣』と、竜族の素敵者『四本角』は、64もの神の御名を持つ巫女『至高姫』の守護を7日間依頼された——』

おおっ、なんかSF色が入ってる……!!
主な萌えボスは『至高姫』が担当ですが、オドロ系シチュエーション萌えにも挑戦できたらなーと。

さて次回も再度ファンタジー編! え? 連続……っ!?
(発表時のまま掲載)

昔ファンロードという雑誌がありまして(いや今もありますね)、そこで投稿した作品のリベンジでした。

その頃の主人公さんは今回と違って、海賊でしたね。手に持つナイフは、その頃からの名残です。



ドラゴンさん。
正面顔って、カッコよく描くのが結構難しい…。
角の生え方がポイントなのかなー?



第二回

(エンターブレイン刊：『マジキュー』 vol.133)

『現代魔術師+人造少女』

第2回目は、『現代編』です。

『新宿の雑居ビルに居を構える貧乏探偵と、そこに転がり込んできた黒衣装の少女の正体は、
"創られし者"にして、深層世界を具現化できる力を持つ、世界で12番目の魔術師だった——』
という現代派奇オカルトモノです。

現世界には存在しない魔術とそれを行使する魔術師、その中でも『12番目』ということは、
当然その前のナンバリングキャラクターが存在するんでしょうね。
また"創られし者"出生とかでもストーリーを引っ張れそうな予感がします。
んー。なにかで羽化したい(笑)。

次回は再びファンタジー編！ 次回も乞うご期待で！！
(発表時のまま掲載)



秘密結社のミュータントさん。
即頭部に刻印があって、その体の組織が固く隆起して、角のような形状になっています。
神経も魔力で特化されていて、常人には不可能な動作を可能にしています。



主人公の性格は、わがままで世間知らず、というステレオタイプです。
下腹部に印された魔法陣が、魔法の発現媒体。
刻印された皮膚が魔法結界を通して、事象として発動します。
だから魔法を使うと、空気の振動でチリチリと皮膚が焼けるんです。



第一回

(エンターブレイン刊:『マジキュー』 vol.32)

『お姉様+黒髪お姉サマ』

このコーナーは、伊藤ペンが勝手に考えた妄想キャラに、これまた作者が自分好きな設定を、勝手に創作して発表してしまおう！ という野心的だか無謀だかわからない連載モノです。

さて！ 記念すべき第1回目は、
『民族戦争で崩壊した王国シリレイアの力を巡り、生き残った王女と護衛兵の逃亡劇』です。

民族がどうのとあるのは、物語の芯にシリアスさが欲しかったのと、また逃亡劇の裏にある『種族差別』とかのテーマを暗に出したかったからなのです。
果たしてふたりは、帝国の執拗な搜索をかわしつつ、
ヴェダジール帝国を打倒することが出来るのでしょうか……？

……しかしこうして設定を作っていくと、今回書いていない中にも別の役割を持ったキャラクターが次々に頭の中に生まれてきて、これをまとめて組み立てていくのも楽しやないと思いました……(笑)。

次回は現代編！ どんなキャラが出来てくるのか、乞うご期待！！
(発表時のまま掲載)

初回だけに、キャラクター全身とかデザインしたり、
字数をオーバーしまくったりして、大変でしたね、第1回目は、
スペース内を埋めるのに、てんてこ舞いでした。

右端の男キャラは、なんとなく入れたかったんで、特に設定とか考えてません、
もー行き当たりばったり……(笑)。



王女さま。天真爛漫です。あと天然です。
お約束ですね。

黒髪のキャラは、王族の親衛隊という設定でした。



マジキューコラム特集!!

(エンターブレイン刊：マジキュー『マジコラム』Vol.32～39 掲載)

さて、ここからが本命。
マジキューでやらせて頂いていた、コラムです。
特に決められていたテーマもなかったのも、
それをいい意味で解釈して、勝手にキャラクター作っていました。

始める前から、第何回はこれをテーマにしよう、と、
ある程度決めていたのでネタに詰まることはなかったんですが、
そのストーリー内で使う専用用語を考えると、よく画面の前で2、3時間固まっていた気がします(笑)。
(結局、音の響きとかイントネーションとかで思いついた言葉になってしまったりして、まだまだ修行が足りないなー、と感じまくってました)

本の制作に関わると、その本が載せる(献本といいます)んですが、
あまり萌えに関する本を買ってないワタクシとしては、
貰っていたマジキューから、アニメとエロゲーという両方の情報を、一冊の本から得ることができたので、大変重宝していました。

突然の廃刊とともに、連載も終了しちゃいましたが、
とっても思い出のあるお仕事でしたね。

周りの方は、マジキューだけに女の子しか描いていなかったのも、
毎回必ず浮いてましたが(笑)。

そんな出来事も、今はただ、懐かしい。



■かがみさん。

ちよいとオトナっ気、確立ちになってしまったけど、まあ許してくれ、諸君。
そう、今のオレは、神に矢を引く叛逆のレジスタンス！

しかしかがみさん。うしろ、うしろ！
バスタオル短くって、もう見えてますよ……ッ！！
つーかここだけはこなたになって、首を 90度回転したい！こうグイッ！！

これこれ、その若い衆。

ここをどんなに薄目で見ても、
カタチが浮かび上がったりはせんぞ！

■泉 こなたさん。

風呂上りには、牛乳をこうグイッと！
実は結構こなた描くの好きです、ボク。



お風呂から出て、 胸むむ二ゅーな、『らき☆すた』。

ひたすらに想像！
お風呂場でのひとコマ。かゆみさん、自分の胸を気にするの図。

■このお尻さんは…。

たぶん、つかさー。
みゆきさんは、カメラの反対側で、
下着あたりを/スタオルで拭いてるんじゃないでしょうか？
つかさはつかさで、毛の手入れとか…。

すまん…。なんか暑さで頭が変になってる……（笑）。



■涼宮ハルヒさん。

なんだオマエ。黄色いリボンを頭に付ければ、ハルヒさんとも決め付けたいのか！
と言わんばかりです。
そもそもこんなにグラマスじゃないよね。

いやしかしそこは同人誌。
もうなんでもアリです。

この本の中では、オレが神!! (なんのこっちゃ)

あと自分事で恐縮ですけど、最近よく描き出した顔のタイプですねー。
瞳に輪郭を強調づけて、瞳孔小さく。
口も比較的大きく描いて広げてる感じ、みたいな。

しかし冷静になって見ると、
巨大化したハルヒに、長門が怒られてる図に見えなくもない…。



それ
まあ
地球
あと
ハル
もし
やだ

ハルヒさんを 描いちゃったりして…!!

なんと言いますか、夏まつさかりなので、水着全開です！ しかもビキニタイプ満載です。日本万歳！



■長門さん。(←左)

それにしても、なぜ長門さんはこんなポーズをしているのか!!?
まあ宇宙人だし、
地球の常識とか知らないうちには何をしてもいい経緯なのさ！と、ここではそう説明しておきたい…！

あとどうでもいいんですが、この本をえろい本にしようと思って作っていたときは、
ハルヒさんがこんなポーズしてました。
そして秘蔵には、なにか刺さった気がする…(笑)。
やだなー、旦那さんそれ以上の淫褻はヤボってもんですよお？

■朝比奈みくるさん。

もはや髪の色だけ似せれば、それはみくるさんだと言わしめたいようです…。
いやー不潔!! (←?)

しっかりフロントホックの水着って、すぐがロリしそー。
水の力は強いんですよ！ あなどるな！日本の乙女よ!!
いや、男はそんな現象を目撃すると、ただ建しがるだけなんですかね。

そんなことより、君！こう隙間から見えないもんかね？
先っちょ！先っちょだけでいいから～!!



Ben's Works [**Light Sketch**]

ベンスワークス [ライトスケッチ]

Powered by  (ベンスワークスマンライン)

©2004 Ben's Works